

## 議事録（議事要旨）〔第5回委員会〕

1. 日時：平成27年11月13日（金）
2. 場所：JSC本部事務所 大会議室1
3. 議題：
  - （1）審査について
  - （2）視察報告
  - （3）質問回答について
  - （4）その他
4. 出席者：村上周三委員長、秋山哲一委員、工藤和美委員、久保哲夫委員、香山壽夫委員、深尾精一委員、涌井史郎委員

### 5. 議事要旨

#### <議題1>

- 事務局から、採点の運用について、①評価項目ごとの一点の重み（バランス）をどう考えるか、②全ての評価項目について6段階に区分することでよいか、③評価項目ごとに、A～Fの水準をどのように設定するのかについて、といった論点があることを提示した。また、事業費の縮減や工期短縮について、委員会の想定を上回る技術提案がなされた場合の対応について、どのように審査を実施するかについても問題提起を行うとともに、採点の運用方針の事務局案の説明を行った。
- 委員から、技術提案の提出前に、採点の運用方針を決めるべきとの発言があった。
- 委員から、今回の審査が要求水準を満たした上での加算点であることをベースに議論をすべきとの発言があった。
- 委員から、施設計画と事業費の縮減とのバランス、施設計画と工期短縮とのバランスに加えて、事業費の縮減と工期短縮とのバランスに関する視点も必要との発言があった。
- 委員から、最終的には提出された技術提案を見て、委員間での議論を重ねた上で、審査基準を確定する必要があると考えるが、出発点として、基準を定めることは

有効であると考えたとの発言があった。

- 委員から、事業費の縮減と工期短縮に関して、それぞれの現実性の考え方については、議論をしていく必要があるとの発言があった。
- 委員間での議論の結果、事業費の縮減の縮減幅については、概ね1割減の縮減をBと評価し、工期短縮の短縮幅については、工期短縮の目標である平成32年1月末まで短縮した場合をBと評価するとの結論を得た。
- 委員から、更なる事業費縮減の提案の評価について、どのように評価すべきかとの発言があり、委員間での議論の結果、事業費の縮減の現実性で評価をするとの結論を得た。
- 委員から、資料にある「A´」や「B´」は、それぞれAとB、BとCの間ということかとの確認があった。
- 事務局から、技術提案書の提出時に、「要求水準に関するチェックシート」が事業者から提出され、事務局で記載内容の事実関係を確認することを「要求水準に関する技術的事項の確認」として実施してよいかを確認し、委員会としての了承を得た。

#### <議題2>

- 工藤委員から北京視察、香山委員からロンドン視察について、資料2を用いて説明した。

#### <議題3>

- 事務局から、10月6日の競争参加資格者の通知後、10月7日～10月27日までの質問に対する回答（合計77問）について、概要説明を行った。